

令和2年度 学校評価実施報告書

学校名（京都市立西京極中学校）

<div>教育目標</div> <p>校是 「自立と貢献」</p> <p>研究主題 「折り合いをつける力の育成」</p>	
<div>年度末の最終評価</div>	
自己評価	<div>教育目標の達成状況、次年度に向けた見直し</div> <ul style="list-style-type: none"> ・学習指導では、今年度もいわゆるアクティブラーニングを取り入れ、そのことが深い学びにつながっているかどうかを意識して授業研究を行った。効果的なグループ学習の振り返りや発表などの活動を共有し、再構成し、取組を進めた結果各種の調査やテストでも成果が出ている。次年度はさらに“深い学び”を研究・実践していくとともに、新学習指導要領の全面实施、GIGAスクール構想新たな学びの形態の実践を進めていく。 ・課題のある生徒も多い中、通級や日本語指導・別室指導など様々な指導を進めているが、一人の生徒にとってさらに適切なものにするため、情報の共有をし、その上で効果的な実践を定着させたい。 ・昨年度からの「しなやかな道徳」の実践をもとに、教科書及び独自教材の教材研究の中で、ねらいの設定や発問内容の研究を行い、成果をあげた。次年度はその資料を活用して成果をより確実なものにしていく。 ・生徒会活動として、地域とともにボランティアとして「服のチカラ・プロジェクト」を実践した。今後も生徒の自主的な力の育成や学校に貢献する生徒を増やしていきたい。今年度はコロナ渦で、昨年までのような小学生と中学生が連携し小中の「つながり」が感じられる場面が設定できなかった。次年度は取組を再構築し小中連携を推進する。 ・働き方改革は一歩進み、時間外勤務の時数は減少したが、次年度は更なる進化が必要である。
学校関係者評価	<div>学校関係者による意見・支援策</div> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナ渦で、思うような教育活動ができなかったが、限られた環境の中で学校運営がなされ、全体としては落ち着いていると感じられる。 ・SNSトラブルの増加が心配され、スマホの利用に対する指導の充実が求められる。 ・地域では、交通ルールが守れていない場面を見かける。安全教育の必要性がある。 ・中学生徒としては、少し大人しく感じる。 ・「服のチカラ・プロジェクト」はよかった。ぜひ来年も継続して欲しい。

学校関係者評価の評価日・評価者

	評価日	評価者
中間評価	令和2年10月14日	学校運営協議会理事
最終評価	令和3年2月25日	学校運営協議会理事

(1)「確かな学力」の育成に向けて 『学力向上プラン』

重点目標

『自ら課題を探究・解決し、他者に貢献できる学力の育成』

～つながりを大切にした学力の向上～

具体的な取組

- ①カリキュラム・マネジメントの視点の下、教科横断的な授業実践
 - ・昨年度作成した「他教科の重複内容 カリキュラム・マネジメントにむけて」や今年度作成する関連単元配列表を意識的に活用し、各教科の授業で学んだ知識がつながるような授業を計画、実践する。
- ②自ら学んだことが仲間との対話の中で、深い学びにつながることを実感できる授業実践
 - ・ペア学習やグループ学習、その他さまざまな対話的な学びの授業実践について検討や改善をする。
 - ・自分の考えを安心して発表できたり、仲間の意見をきちんと受け止めたりするなどの雰囲気などの授業でも行えるように、研修会等で他教科との実践交流を行う。
- ③学んだことが他者や社会につながり、貢献していることを実感できる授業実践
 - ・社会における自分の役割を考え、学びが他者や社会の貢献につながっていくことを実感できる場をつくる（総合的な学習の時間）。
 - ・週末課題を含めた、「家庭での自学自習の習慣化」につながる学習課題作成に取り組む。

（取組結果を検証する）各種指標

- ・全国学力・学習状況調査、学習確認プログラムの分析結果。
- ・家庭学習での成果物の点検結果。
- ・授業内での生徒の話す・聞く態度の変容。
- ・生徒及び保護者アンケートの結果。

該当項目・・・①「授業を通してじっくり考えたり、自分の考えをまとめたりする力が身についてきた。」（生徒）

②「授業を通して自分の意見を発表したり文章に書いたりするなど、表現する力が身についてきた。」（生徒）

③「意欲的に学習する姿勢が身についてきた。」（生徒）

④「子どもは学習に意欲的に取り組んでいる。」（保護者）

中間評価

各種指標結果

生徒及び保護者アンケートの結果

- ①「授業を通してじっくり考えたり、自分の考えをまとめたりする力が身についてきた」（生徒）の適合度は、5.4ポイントでH31年度前期より0.1ポイント高く、H31後期より0.1ポイント低い。
- ②「授業を通して自分の意見を発表したり文章に書いたりするなど、表現する力が身についてきた。」（生徒）の適合度は、5.1ポイントでH31年度前期より0.5ポイント低く、H31後期より0.2

	<p>ポイント低い。</p> <p>③「意欲的に学習する姿勢が身についてきた。」(生徒)の適合度は、5.3ポイントでH31年度前期より0.1ポイント低く、H31後期と同じである。</p> <p>④「子どもは学習に意欲的に取り組んでいる。」(保護者)については、12月に第1回保護者アンケートを実施予定であり、最終評価で記載する。(昨年度の適合度は前期4.2、後期4.5と厳しい結果となっている)</p> <p>休校の影響もあり、アンケートの数値は昨年と比べ横ばい、もしくは低い評価となっている。</p>
自己評価	<p>分析(成果と課題)</p> <p>○例年、ペア学習・グループ学習等の授業を意識的に取り入れ、対話的な学びを意図的に取り入れた授業改善が成果につながってきたが、今年度は「対話的な学びの授業実践」について十分に組み立てていない。</p> <p>○休校時の家庭学習課題は、適切な量・内容のものを提示できた。</p> <p>○学校再開後も、落ち着いて学習ができる環境となっている。</p>
	<p>分析を踏まえた取組の改善</p> <p>自ら課題を探究・解決し、他者に貢献できる学力の育成を実現するために、</p> <p>①制限された条件の中ではあるが、授業内での課題設定と、対話的な学びを通じた深い学びの実現に向けて、学習の振り返りの記述内容の検討を行う。</p> <p>②基礎基本の家庭学習だけでなく、週末課題を中心として学習がつながるような、また深い学びにつながるような家庭学習課題を実施していく。</p>
	<p>(最終評価に向けた)取組の改善を検証する各種指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習確認プログラムの分析結果。 ・家庭学習での成果物の点検結果。 ・授業内での生徒の話す、聞く態度の変容。 ・生徒及び保護者アンケートの結果。
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校行事に参列したが、例年のような取組が見られないのが残念である。しかし生徒たちは限られた状況の中でも、意欲的に取り組んでいる。 ・不登校の生徒に対しての細やかな取組が進んでいる。しかし、コロナの影響もあってか、不登校生徒が増えているのが気にかかる。 ・休校の関係で規則的な生活リズムが崩れるとともに、スマホ依存によりタイムマネジメントのできていない中学生が多いのではないかと。また、子どもたちがもっと本に向き合う時間を大切にするようになって欲しいと思う。

最終評価

<p>中間評価時に設定した各種指標結果</p> <p>生徒及び保護者アンケートの結果</p> <p>①「授業を通してじっくり考えたり、自分の考えをまとめたりする力が身についてきた」(生徒)の適合度は、5.5ポイントで前期より0.1ポイント高い。</p> <p>②「授業を通して自分の意見を発表したり、文章に書いたりするなど表現する力が身についてき</p>
--

	<p>た。」(生徒)の適合度は、5.3ポイントで前期より0.2ポイント高い。</p> <p>③「意欲的に学習する姿勢が身についてきた。」(生徒)の適合度は、5.3ポイントで前期と同じである。</p> <p>④「子どもは学習に意欲的に取り組んでいる。」(保護者)の適合度は、前期4.4ポイント後期4.7ポイントと改善傾向にあるが、まだまだ厳しい状態にある。(昨年後期は4.5ポイント)</p> <p>45分間という授業の中で工夫した授業展開を行ったが、対話的な学びを通した深い学びの実現には限界があった。授業内や家庭学習の中で思考力や表現力の向上を狙いとした課題を多く出すことによって、じっくり考えたりする場面を増やす工夫もした。しかし、繰り返し行うことで単にこなしているという意識を持ったり、達成感を感じることが出来なかったりと感じる生徒もいるように思われる。</p>
自己評価	<p>分析(成果と課題)、重点目標の達成状況、次年度の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業ではグループ学習はできなかったが、単元の振り返り・単元テスト・小テスト等の小さなかたまりでの課題設定を行い、学習のチェックについて改善できている。しかし、課題に前向きに取り組めなかったりする場面もあり、各取組をさらに見直し改善する必要があると思われる。
	<p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・どのような場面での、「グループ学習・振り返り・発表」などの活動が効果的なのか、教科をこえて取組全体を共有し、再構成する必要がある。 ・GIGAスクール構想による新たな学びの形態の実践を行い、協働的な学びを大切にしながらICT環境も最大限活用する教育課程を編成する。
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍のもと、学習形態に工夫がありよかった。 ・スマホについて、適切に利用できない生徒に集中力に関係しており、そのことが家庭学習や家庭での読書量にも関係していると考えられる。スマホとの適切付き合い方を指導することが、大きな課題だと思う。また、学習意欲を高めるような指導が必要だと思う。

(2)「豊かな心」の育成に向けて

重点目標
生徒の成長を見取り伝えることにより、道徳的实践力の育成につなげる。
<p>具体的な取組</p> <p>①教科書の読み物教材を活用して、授業力の向上を目指すとともに、昨年度実施した教科指導と道徳の時間の関連を深めた授業も活用し、学校全体として道徳教育が活性化するよう年間指導計画を立てる。</p> <p>②年2回の振り返りシートから生徒の成長の様子を見取ることによって生徒への理解を深め、それにより学校生活において生徒一人一人が道徳的实践力を育成できるよう教員がサポートする機会をつくる。</p> <p>③道徳推進教師等が中学校ブロック3小学校と定期的に情報交流するとともに、小中合同夏季合同研修会で各校の取組状況を中間報告し、中学校ブロックの「育てたい児童・生徒像」をもとに、各校が共通の重点内容項目を設定できるよう引き続き検証を行う。</p>

(取組結果を検証する) 各種指標
<ul style="list-style-type: none"> ・学校行事や生徒会活動、道徳の授業で見られる生徒の成長や取り組む姿勢の変容。 ・研修会、研究授業での意見。 ・生徒、保護者および教員によるアンケートの結果。 <p>該当項目・・・①「クラスや学年など、学校内の様々な集団で、自分の思いを伝えられるようになってきた。」(生徒)</p> <p>②「クラスや学年など、学校内の様々な集団で、周囲の意見をしっかり聞けるようになってきた。」(生徒)</p> <p>③「学級や学年、学校全体で人権を大切にする集団作りをしているように感じられる。」(保護者)</p>

中間評価

各種指標結果	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ下における限られた学校行事において、他者を受け入れる姿勢に変容があった。 ・生徒、保護者および教員によるアンケートの結果 <p>①「クラスや学年など、学校内の様々な集団で、自分の思いを伝えられるようになってきた。」(生徒)の適合度は、5.2ポイントで、H31年度前期・後期より0.1ポイント低い。</p> <p>②「クラスや学年など、学校内の様々な集団で、周囲の意見をしっかり聞けるようになってきた。」(生徒)の適合度は、5.9ポイントでH31年度前期と同じで、後期より0.1ポイント高い。</p> <p>③「学級や学年、学校全体で人権を大切にする集団作りをしているように感じられる。」(保護者)については、12月に第1回保護者アンケートを実施予定であり、最終評価で記載する。(昨年度の適合度は前期5.1、後期5.0となっている)</p>
自己評価	分析(成果と課題)
	<ul style="list-style-type: none"> ・読み物教材に対する意識において、生徒側は苦手意識がなく、自由な発言・発想ができていますが、指導者側は若干の難しさを感じている。 ・限られた条件の中だが授業内で生徒同士が関わり合いをもちながら学習する形態を工夫しており、学校行事においても他者の行動や発言を受け入れた取組ができている。しかし、盛り上がり過ぎるとただ騒がしい状態になってしまうなど、その環境が生徒の中で行き過ぎた行動や発言につながるケースがある。
	分析を踏まえた取組の改善
<ul style="list-style-type: none"> ・研修会等を通して、指導者側の授業に対する苦手意識を軽減する。 ・集団の場でのマナーに対する指導の共通理解を図り、学級活動時には生徒への声かけを心がける。 	(最終評価に向けた)取組の改善を検証する各種指標
<ul style="list-style-type: none"> ・学校行事や生徒会活動、道徳の授業で見られる生徒の成長や取り組む姿勢の変容。 ・研修会、研究授業での意見。 ・生徒、保護者および教員によるアンケートの結果。 	学校関係者による意見・支援策
学校関係	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ下においても、他者を思いやり、人権を大切にする心を学校と共に育てていきたい。 ・保護者としては、家で指導すべきことまで学校でしてもらっている。

者 評 価	<ul style="list-style-type: none"> ・道徳の時間に幅広く学習されていることはよいと思う。学級の日々の課題と結び付けて学習を広げていって欲しい。 ・何かを伝えられるようになったことはよいが、話をしっかり聞けないのはよくない。相手の違いを認めながら、話を聴けるようになることはとても大切である。
-------------	--

最終評価

	<p>中間評価時に設定した各種指標結果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒、保護者および教員によるアンケートの結果 <ol style="list-style-type: none"> ①「クラスや学年など、学校内の様々な集団で、自分の思いを伝えられるようになってきた。」(生徒)の適合度は、5.2ポイントで、前期のポイントと同じである。 ②「クラスや学年など、学校内の様々な集団で、周囲の意見をしっかりと聞けるようになってきた。」(生徒)の適合度は、5.9ポイントで前期のポイントと同じである。 ③「学級や学年、学校全体で人権を大切にする集団作りをしているように感じられる。」(保護者)の適合度は、前期 5.2 ポイント後期 5.0 ポイントで昨年後期の 5.1 ポイントとほぼ同じである。 ・道徳の研究授業での協議を通して、生徒理解を深めることで、道徳授業に関する教材研究や年間計画を見直すことができた。
自 己 評 価	<p>分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・道徳授業に関する教材研究、ねらいの設定、発問内容を議論することができた。その議論を活かして、授業に取り組むこともできた。 ・振り返りシートを活用して生徒の成長を見取ることができたが、今年もコロナの影響もあり保護者との共有を直接行えなかったことで、生徒自身が成長を感じる機会が少なかった。 ・今年度の「しなやかな道徳」取組を活かし、評価の提示時期や方法を再検討したい。 ・これまでに実施してきた教材を活用できるよう、資料の作成・整備を行う。 <p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これまでに教材研究(教科書および独自教材を含む)、授業実践からわかる成果・課題を、来年度に活かせるよう、資料を作成する。 ・今年度、「生徒の成長の見取りを保護者と直接共有するために、前期の振り返りを10月頃に実施し、全学年が12月の三者懇談会で評価を渡す機会を持つ」としていたが、実施できなかったので次年度の課題とする。
学 校 関 係 者 評 価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いいところを評価していく指導を続けて、自己有用感・自尊感情など意識的に育てて欲しいと願っている。 ・重点課題の「折り合いをつける力」を、ぜひ今後も育てて欲しいと思う。 ・道徳の時間の指導の向上に力を入れてきたことがよく分かった。これからもその取り組みをぜひ継続して欲しい。

(3)「健やかな体」の育成に向けて

重点目標

心身の健康に関心を持ち、生涯にわたって健康を保持・増進する自己管理能力を育てる。

具体的な取組

- ・保健体育の授業の中で、ペア学習・グループ学習を通じて対話的で深い学びを重視した授業づくりを行う。
- ・新体力テストから自分の現状を知り、家庭での取組に生かす。
- ・健康診断、健康観察、保健室情報等を根拠とした健康教育を推進する。
- ・キャリア教育、道徳、人権教育、ライフスキル教育、安全教育、情報教育等と関連付けた健康教育の推進で、自他を大切にする態度を育成する。
- ・保健の授業での社会性の向上で、公共の精神に基づく態度を育成する。
- ・基本的な生活習慣を定着させるため、生徒会保健委員会より啓発活動を行う。
- ・学校保健委員会を実施する。
- ・校内教職員研修会を実施する。

(取組結果を検証する) 各種指標

- ・生徒の話す、聞く態度の変容。
- ・1年ごとの新体力テストの結果。
- ・あいさつ、時間、掃除など学校生活の状況。
- ・健康なからだづくりのため、規則正しい生活習慣を心がける態度。
- ・保護者の学校評価アンケートの結果。

該当項目・・・①「子どもは規律正しい学校生活が送れていると思う。」(保護者)

中間評価

各種指標結果

- ・生徒の話す、聞く態度の変容は、技能について話し合う姿が多くなったことから見て取れる。
- ・1年ごとの新体力テストの結果は、3年間記入できるカードで確認している。
- ・授業の開始終了時間は、しっかり守れている。
- ・該当項目・・・①「子どもは規律正しい学校生活が送れていると思う。」(保護者)は、12月に第1回保護者アンケートを実施予定であり、最終評価で記載する。(昨年度の適合度は前期5.2、後期5.0となっている)

自己評価

分析(成果と課題)

- ・コロナ下において、保健体育の授業の中での対話的で深い学びを重視した授業づくりが計画通りはできなかった。
- ・新体力テスト実施し、その結果から自分の現状を知り、ふり返りの中で、自分の体力を把握した。
- ・健康診断、健康観察を計画通りに実施し、個別の保健指導に繋げることができている。
- ・例年「NKGレベルアップ週間」で生徒会保健委員会より「朝食チェック」を行い、規則正しい食生活定着のための啓発活動を行っている。今年度は前期に実施できなかったため、保健だよりによる啓発と、後期レベルアップ週間での啓発を行う。

	<div>分析を踏まえた取組の改善</div> <ul style="list-style-type: none"> 生徒の実態や健康課題を把握し、健康教育を進めていく。
	<div>(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標</div> <ul style="list-style-type: none"> 生徒の話す、聞く態度の変容。 1年ごとの新体力テストの結果。 あいさつ、時間、掃除など学校生活の状況。 健康なからだづくりのため、規則正しい生活習慣を心がける態度。 保護者の学校評価アンケートの結果。
学校関係者評価	<div>学校関係者による意見・支援策</div> <ul style="list-style-type: none"> 中学生は成長期であり、いろいろなことの過渡期でもあるので、コロナ下においても心の健康については大切に指導して欲しい。 昨年、女子のスラックスが導入されたことを、大いに評価している。これからもLGBTの理解など、一人ひとりの人権を大切にする取組を期待する。

最終評価

自己評価	<div>中間評価時に設定した各種指標結果</div> <ul style="list-style-type: none"> 生徒の話す、聞く態度の変容は、技能だけでなく戦術についても話し合う姿が多くなったことから見て取れる。 1年ごとの新体力テストの結果の報告があったので、他の教員にも回覧した。 あいさつ、時間、掃除など学校生活の状況や挨拶はまだ不十分な部分が残る。 コロナウイルス感染拡大を意識して、健康なからだづくり・規則正しい生活習慣を心がけ生活している。 該当項目・・・①「子どもは規律正しい学校生活が送れていると思う。」(保護者)の適合度は、前期5.2ポイント、後期5.4ポイントとなった。
	<div>分析(成果と課題)、重点目標の達成状況、次年度の課題</div> <ul style="list-style-type: none"> 保健室前の掲示板を整備したことによって、保健指導資料を掲示する等、健康教育に掲示物の活用ができた。 簡単なけがの処置はで自らでできるが、心身の健康に関心な生徒が多くいることを個別の保健指導を通して確認できた。次年度も『健やかな体』の育成に向けて引き続き個別の保健指導を行う。
	<div>分析を踏まえた取組の改善</div> <ul style="list-style-type: none"> 生徒の実態や健康課題を把握し健康教育を進める。 学校保健委員会で協議した心身の健康問題も踏まえて取組を進める。
学校関係者評価	<div>学校関係者による意見・支援策</div> <ul style="list-style-type: none"> 健康面でもスマホの利用が大きくかかわっていて、睡眠不足や体調不良に影響を及ぼしているように思います。継続的な指導をお願いしたい。

(4) 学校独自の取組

重点目標

①小中一貫教育

- ・一人一人の児童・生徒が自分の成長に自信を持ち、他者の成長を認め、仲間とともに学び、競い合い、成長し合うことで、生涯にわたって学び続ける意欲を培う。
- ・地域や社会の一員として貢献しようとする姿勢を育てる。

②秩序ある学校生活を送る中で、次のような子ども像を目指す。

- ・自他を大切にする児童・生徒。
- ・楽しく学び、じっくり考え、しっかり行動できる児童・生徒。
- ・困難に対し、粘り強く立ち向かおうとする児童・生徒。
- ・社会に目を向け、人の役に立とうとする児童・生徒。
- ・地域の方との交流の中で「公共の精神」に基づく態度を育成する。

具体的な取組

- ①月1回の小中合同定例会（校長会・教頭会・教務主任会・研究主任会）を持ち、それぞれの立場から9年間を見通した取組についての検討を進める。
- ②夏季休業中に小中合同研修会を持ち、西京極中学校区小中一貫教育の在り方について検討する。
- ③「中一ギャップ」の解消に向け、体験授業や生徒会本部役員による中学校説明会を行う。
- ④小学校児童会と中学校生徒会の協働の取組を進める。
- ⑤小中学校相互の授業を参観し、道徳では共通の振り返りを実施する。

（取組結果を検証する）各種指標

- ・日頃のあいさつ。
- ・地域の行事への参加数。
- ・地域の人と関わるようになってきたか。
- ・保護者の学校評価アンケートの結果。

該当項目・・・①「子どもは年齢相応の社会性（人とかかわりや集団行動）が身についてきたと思う。」（保護者）

中間評価

各種指標結果

- ・昨年同様、日頃のあいさつについては改善している。
- ・地域行事はほとんど開催されていない。
- ・該当項目・・・①「子どもは年齢相応の社会性（人とかかわりや集団行動）が身についてきたと思う。」（保護者）は、12月に第1回保護者アンケートを実施予定であり、最終評価で記載する。（昨年度の適合度は前期5.1、後期5.1となっている）

自己評価

分析（成果と課題）

- ・小中合同研修会で、さらに踏み込んだ成果を授業や取組に生かしていくことを確認した。生徒会が中心となり、小学校や地域にも協力を仰いで、ボランティア活動を始めた。生徒会本部役員が直接お願いに行き、協力を求めるような活動を行った。

分析を踏まえた取組の改善

- ・ボランティアの結果を小学校や地域に返していくような取組を進めていく。

	<div>(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標</div> <ul style="list-style-type: none"> ・日頃のあいさつ。 ・地域の行事への参加数。 ・地域の人と関わるようになってきたか。 ・保護者の学校評価アンケートの結果。
学校関係者評価	<div>学校関係者による意見・支援策</div> <ul style="list-style-type: none"> ・地域のスポーツ行事に中学生も参加してくれている。10代後半, 20代も多数参加し, 喜んでいる。今後もこのつながりを大切にしたい。 ・地域では, あいさつすると返ってくるが, だまっているとあいさつしない中学生が多い。

最終評価

	<div>中間評価時に設定した各種指標結果</div> <ul style="list-style-type: none"> ・日頃のあいさつについては, 「あいさつ運動」などの取組により少しずつ成果を上げている。 ・今年度は地域行事がほとんどなく, 評価できない。 ・該当項目・・・①「子どもは年齢相応の社会性（人とのかかわりや集団行動）が身についてきたと思う。」（保護者）は, 適合度は前期 5.2 ポイント, 後期 5.1 ポイントほぼ同じである。（昨年度も, 前期・後期共に 5.1 ポイント）
自己評価	<div>分析（成果と課題）, 重点目標の達成状況, 次年度の課題</div> <ul style="list-style-type: none"> ・今年度, 「地域や社会に貢献できる生徒」を目指して, 生徒会を中心にボランティア活動を行う予定だったが, 地域の小学校や児童館, 店舗等とも生徒が直接かかわり, 活動する機会を得ることができなかった。また, 小中一貫教育でも新しい取組や成果はあまり進まなかった。 <div>分析を踏まえた取組の改善</div> <ul style="list-style-type: none"> ・来年度は地域や社会とのかかわりを目指してのボランティア活動も続け, 新たに小中一貫の活動を増やしていきたい。多くのかかわりの中で, 生徒たちの『折り合いをつける力』の育成を目指して, 小学校, 地域, 社会との連携を進めていきたい。
学校関係者評価	<div>学校関係者による意見・支援策</div> <ul style="list-style-type: none"> ・規模は縮小されたが, 中学校の生徒会が中心となって実施した地域とのボランティア活動「服のチカラ・プロジェクト」は大変良いと思う。来年度も継続して欲しい。 ・校区では, 依然と「交通ルールが守れない中学生」が多く, 「公園の利用の仕方が守れない中学生」もいるように思う。地域や家庭の問題でもあるが, 地域の子どもみんなで育てていくという観点で, 小学校と連携して中学校でも安全教育を積極的に進めて欲しい。

(5) 業務改善・教職員の働き方改革について

重点目標

教職員の資質・指導力の向上

働き方改革を踏まえた組織づくりや時間管理の工夫

具体的な取組

- ・通常の研修会とは別に、OJT研修会（若手・中堅道場）を定期的（月に1回）に開催することにより、教職員の資質・能力の向上を図る。
- ・職員会議や研修会で、校長・教頭より必要な短時間の研修を行う。
- ・カリキュラム・マネジメントの視点で、学校行事の精選をする。
- ・職員室などで、整理・整頓・ロッカーにラベルを貼るなど、効率的な業務をすすめる。
- ・出退勤システムの入力を習慣化し、時間外勤務時間数を意識する機会を定期的につくる。

（取組結果を検証する）各種指標

- ・時間外勤務時間の時間数
- ・教員の学校評価アンケートの結果。

該当項目・・・①「働き方改革を踏まえた組織改革や時間管理の工夫などが一歩進んだ。」（教職員）

中間評価

各種指標結果

- ・時間外勤務の時間数：全教職員の月別平均（時間、分）は、4月20時間12分、5月4時間45分、6月34時間6分、7月52時間11分、8月24時間1分、9月54時間35分である。（昨年度は7月54時間11分、8月26時間45分、9月54時間27分である）
また、1ヶ月に80時間超の人数は、4月0人、5月0人、6月0人、7月3人、8月0人、9月3人である。（昨年度は7月7人、8月0人、9月6人である）
※4～6月は休校の関係で、時間外勤務の時間数・80時間以上の人数共に大幅に減少している。
- ・教員の学校評価アンケートの結果。該当項目：①「働き方改革を踏まえた組織改革や時間管理の工夫などが一歩進んだ。」（教員）は、「そう思う」が20.0%、「大体そう思う」は67.5%、「あまりそう思わない」10.0%、「そう思わない」が2.5%である。（昨年前期は「そう思う」が27.5%、「大体そう思う」は50.0%、「あまりそう思わない」17.5%、「そう思わない」が5.0%である）
また適合度は5.1で、昨年前期5.0、後期5.2ポイントとほぼ同じである。

自己評価

分析（成果と課題）

- ・4～6月については、昨年度の時間外勤務の時間数や80時間超の人数の比較はできないが、7月以降については若干の改善が見られる。ただし、例年と全く違う対応を検討し実施する必要があり、思ったほどの改善にはつながっていない。
- ・教職員アンケートの他の項目の指数と比べると、適合度は高くなく、その成果はあまり見られない。（教職員人事課全項目の適合度平均は5.4）

分析を踏まえた取組の改善

- ・OJT研修会（若手・中堅道場）を定期的に（月1回）開催して、教職員の資質・能力のさ

	<p>らなる向上を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・職員会議や研修会で、校長・教頭より短時間の研修を継続する。 ・来年度の学校行事の原案づくりの中で、カリキュラム・マネジメントの視点を持ち、学校行事の精選を図る。 ・職員室などで、校務支援員と協力して、整理・整頓・ロッカーにラベルを貼るなど、効率的な業務をすすめられるよう環境づくりを行う。 ・出退勤システムの入力が習慣化してきている。さらなる定着を図る。
	<p>(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・時間外勤務時間の時間数, 45 時間・80 時間超の人数 ・後期教職員の学校評価アンケート (12 月実施) の結果。 <p>該当項目・・・①「働き方改革を踏まえた組織改革や時間管理の工夫などが一歩進んだ。」(教職員)</p>
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・時間を決めて留守番電話をセットすることに賛成する。 ・コロナ対応で大変な時期があったと思う。 ・働き方改革が前進していくことを期待するとともに、地域としても協力・応援していく。

最終評価

	<p>中間評価時に設定した各種指標結果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・時間外勤務の時間数：全教職員の月別平均（時間，分）は，10 月 56 時間 45 分，11 月 46 時間 05 分，12 月 43 時間 34 分，1 月 39 時間 38 分，2 月 39 時間 58 分である。また，1 ケ月に 80 時間超の人数は，10 月 6 人，11 月 2 人，12 月 1 人，1 月 0 人，2 月 1 人である。 ・教員の学校評価アンケートの結果。該当項目：①「働き方改革を踏まえた組織改革や時間管理の工夫などが一歩進んだ。」（教員）は，適合度が前期 5.1 から後期 5.0 ポイントと 0.1 ポイント下がった。
自己評価	<p>分析（成果と課題），重点目標の達成状況，次年度の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・時間外勤務の平均の時間数は，前期の 10 月より毎月少しずつ少なくなっているが，前年度期と比べると大きな差はなかった。また，80 時間超の人数も 11 月からは 0～2 人となった。学校行事の量や冬季の下校時間が早くなったことが大きな要素としてあげられるが，働き方改革への教職員の意識改革が進んだ成果とも思われる。 ・学校評価アンケートの結果から，大きな改善はなかったが，コロナ渦での新たな取組への負担感からの結果とも思われる。 <p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・勤務時間を枠として捉え，最低限必要な補導事象の取組を除いて，できるだけ最大でも 7 時 30 分から 19 時の中で教育活動を行うことが，少しずつだが意識できはじめていると思われる。 ・カリキュラム・マネジメントにより，来年度の学校行事の精選を行う。具体的には生き方探究・チャレンジ体験をなくすことや，定期テストの実施時期・回数を見直すことでさらなる推進を図ることとする。

学校関係者評価	<div data-bbox="220 114 624 159" data-label="Section-Header"> <p>学校関係者による意見・支援策</p> </div> <div data-bbox="225 165 1439 349" data-label="List-Group"> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナ渦での取組や，G I G Aスクール構想などの新しい取り組みもある中，働き方改革を推進することは難しいことと思うが，この社会の流れの中で，やはり重要なこととなってきたと思う。 ・夜間の留守番電話設定や学校が早く閉まることに対しては，地域の理解が進んでいる。 </div>
---------	--